

2023年(令和5年)

第54号

(7月15日)



発行所：立正佼成会 京都教会
 発行責任者：渉外部長 澤村悦玄
 編集委員長：渉外広報 植田恭司
 〒605-0041 京都市東山区三条東町 230
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

かめおか宗教懇話会記念講演会 ～日本の特殊性、宗教の必要性を述べた～



かめおか宗教懇話会（会長：出雲大神宮宮司 岩田昌憲師）は、令和5年度の記念講演会を7月2日に大本本部みろく会館3階ホールで開催し、多くの会員や府民が参加しました。

今回は特定非営利活動法人 AMDA 理事長の菅波 茂氏が「～不条理の世界～ 血縁共同体との接点」と題し、およそ1時間30分の講演を行いました。

AMDA は1984年の設立以来、60ヶ国243件（2023年2月現在）の緊急支援活動を行っており、それらの経験を通じて血縁共同体との接点および連携について述べられました。

国際社会では宗教の背景なしに語れず、特に一神教の方々との相互理解は不可欠だとし、我々自身が日本

の特殊性を知っておくことが今後の相互支援、相互信頼につながっていくと語りました。その中で「啓典（新・旧訳聖書）の民」の常識について語り、世界では、①有言実行、②有言不実行、③不言不実行、④不言実行の順に評価が下がっていくと紹介。日本人の美德とされる「多くを語らず、やることはやる（不言実行）」という陰徳の精神は、啓典の民の国である世界からは評価されないことを述べると、会場からも驚きの声がありました。

さらに、日本人は「いつ、だれが聞いても、そうだと思える（Why と How）」普遍性なことが発言出来ないとし、これは日本の教育の中に宗教がないためであり、国際社会の中で真に信頼を得るためにも宗教的な教育が必要と述べ、自然災害や戦争や食糧エネルギー危機などが起こる不条理な世界だからこそ、日本人の壁のない相互扶助の精神、宗教的寛容さ、謙虚さの発揮こそが求められると講演を結ばれました。

最後に当会副会長の中村憲一郎師が感謝の意を表し閉式となりました。

なお、講演会開催前には令和5年度の総会も行われ、4年度の報告、5年度の計画が承認されました。



祇園祭山鉾巡行ボランティアオリエンテーション ～24日花傘巡行担当～

6月25日、祇園祭山鉾巡行ボランティアのオリエンテーションが京都市立開晴小・中学校の六原学舎で開かれ、7月17日先祭と24日後祭のボランティアメンバーが集合し、京都教会青年部からも参加しました。公益財団法人祇園祭山鉾連合会の大田副理事長、並びに八坂神社の野村宮司から挨拶があり、その後全体説明、そして担当山鉾別の打ち合わせに移りました。

京都教会青年部は新宗連青年部と共に、今年は24日の花傘巡行を担当することになり、集合時間や場所及び服装について説明がありました。



その後、八坂神社に移動し本殿でお祓いを受けました。花傘巡行については→

<https://www.yasaka-jinja.or.jp/event/gion02/#sec07>

令和5年、私たちは「日々感謝 にこにこ元気に出会いたい ありのままの私から」を実践して参ります。

京都教会のホームページもご覧下さい。 <https://rkk-kyoto.jp/>